

受第 三 八 一 號

公使 東學堂モ親に追て盛に二城ヲ来んと云フ事
就ラレ 仁川着忽し爲ト其事モ海にシマシ夕則々
彼處ノ仁川指ハ兵站監長ニ伊藤ト云フ人カ置テ
他處ノ仁川指ハ兵站監長ニ伊藤ト云フ人カ置テ
アリマス夫レカラ書シイワリ聞キミタカ何ヨ以是ハ車
アリマス夫レカラ書シイワリ聞キミタカ何ヨ以是ハ車
刺減スル策ヲ執ラナケレバナラス足下ノ手ニ有ル兵隊ヲ以テ
軍減スル策ヲ執ラナケレバナラス足下ノ手ニ有ル兵隊ヲ以テ
先分テアル款否ヤヲ問タトコロカ伊藤ガ云フ三旦セシテハ兵
不充分ナル就ラハ伊藤勝カラム大才者ヘ電信ヲ打チ私カ
ラモ別ニ兵ヲ出スヨリ云ツヤウチ少シト云フ清水アル夫レ
多モ別ニ兵ヲ出スヨリ云ツヤウチ少シト云フ清水アル夫レ
カラ此京城と居ル方ノ兵ハドウナワテオルカト云フワリ尋ネ
ナラヒテ京師ニ居ル方ノ兵ハドウナワテオルカト云フワリ尋ネ
夕処カ之第一軍ノ命令ニ従テ進退スルモノデ當分暫時

八

1615 889

第拾號
八月八日午後二時
總理大臣金宏集外務大臣
金元植度支大臣魚尾中三氏末館井上公使
談話筆記
同寒暖挨拶了テ
金総理大臣神承和通ク忠清金羅西道東
學堂益々猖獗ヲ極メ地方官ヲ殺傷シ良民ノ財ヲ
掠奪スルナド頭目ハ切迫ノ情境ニ至リ我兵力ノ微
弱ナル如キトモ能ハス不成就之ガ慘戚方ニ及ビ貴

1615:41 888

1615 894



1615 895

MT

中央政府ノ責ヲハアリマスが何カ指揮官ナル士官が充分デ
ナクシテ軍規ヲ正シテ兵ヲ導ク行クが出来ヌ夫故今地
方ニアル祖統来リ以テ軍規ヲ定メバソレモ何モ地方人
ヲ苦ムトハナイ者ナレト畢竟地方ノ良民ハ迷惑サセムト
免カレヌ妙何モ取カシイテア、此頃貴方ノ兵隊が
三十人ヲ東集貴ト戦フヲ大ニ効ヲ奏シタト云フヲ聞テ私
等モ貴國ノ兵が熱心ニ奉力シテ果シタリニ就テ大ニ難有
感シテ居リマス、又昨日得タル~~電報~~ 祝山郡守米谷英
(都憲米谷容見弟ナリ)ノ報、~~電報~~ 祝山郡守米谷英
人祝山、来リ居リシニ東集貴四カ人郡集シテ之ヲ圍ミ大ニ

MT

1615

896

戦ヲ貴方ノ兵一人即死シ二人傷ヲ受ケタシニ到底敵ノ多数
ニ勝ツヲ能ハサルヲ見テ郡守ノ印璽ヲ保護シテ、我々
甲龍ノ地ニテ郡守ヲ連系シテノ保護ニ果シタリト因テ
若シ此が朝鮮兵デアツタラバ祝山郡守ヲ殺セシ印璽
モ彼等ニ奪ハレタラツト思フ所ナリ、我々兵ノ勇氣ア
ルハ自カノ傷ヲ受ケタルニ多ク物バ不~~慮~~ 郡守ノ困難ノ中
救ヒ果シタルハ實ニ感佩ノ外ナシ此等ニ就キ今日少礼ヲ申
ス所デアリマス

MT

1615

897

△五

レ多耶山間カラ銃術兵五百人に毒兵百人合セテ六百人の
兵ヲ出スト云フ掛合デアツタ目撃者モ兵ヲ出シテト云フ掛
合アワタ、ソコデ私ハ、お結術門ニ掛合セテ坂録サシノ事ヲ
オル兵ハ無用デアシ出ルヤル分然ニベシト答ヘテ、返テ教導
中隊二百人江毒兵百人銃術兵三百人出シテニサタ、ソコデ
一昨ニ脱此處ニ三中队ノ準備兵ハ著タカラ私ハ直リ士
官ヲ招キテ又ニ毒兵モ走カ斯クノ、テ毒政府カラ依頼セ
ルニ付テハ日中ノ士官佐伯忠尉ハ訓練シテ、又ニ教導兵二百
カアシテ出スベシト命シテリ、然レ其兵ハ訓練ハシタケレバ
常何モシテ未ダ陣頭ニ立テ充分働キキヲ為ヌヤ否ヤ又夫レ

MT 1615 898

ニ付隨シテ、オル士官が未タ日本ノ士官ノ妙ヲ伝テ、訓練
シテシモノデハ、イ技術ハ、貴ヘシ、ウカ、連ニ指揮監督ト云
フ、ハ、不先カデアレ故ニ、野着ノ士官ノ中カラ教導中隊
ニ百ヲ指揮監督シテ下士官及ビ兵士モ適當ト思フ、又
連ニ行キ此兵ヲ指揮セヨ夫ハ舊政府ニ掛合フベシト
云テ直ニ、中付タト、ヨ士官ハ、合、脱カ、ラ、テモ、主、マ、モ、サ、ト、モ、ク
タリ、其、型、ノ、多、分、教導中隊ハ、出ル、ア、ハ、ラ、思フ、即、チ、モ
再ビ士官ヲ招キ通系係ニ、三、連、モ、傳、テ、モ、シ、ソ、又、教導
中隊長モ、振、録、サ、人、モ、招キ、各、士官、トリ、合、タ、上、格、中
隊長ニ、来、熟、サ、兵、デア、ル、カ、ラ、此、之、ノ、士官、モ、從、テ、終、途、

MT 1615 899

六

勅にナケレバナラヌ進ント云ハルニ進止マレト云ハ止マ
ラナケレバナラヌ且此間訓練ノ受ケタリナハ此度実
際ニ就テ訓練ヲ取得シ今進朝能ノ兵ト云ハ敵
ヲ見テ逃ガル散乱スルヲモ此身ハ武官ノ下ニ訓練
ヲ受ケタモノデワー云フモノカレバ愈々朝能ノ兵ハ足
リ極度ニ乏シクヌエノデアルハ此名譽ト云フモノナケ
レバナラヌ又國王ニ忠ナル志ヲ持タナケレバナラヌ又國ヲ愛
スルト云フ精神ヲ持タナケレバナラヌ又夫レ就テハ都ラ我士
官ノ命令ヲ守ラナケレバナラヌ又務又日布兵ノ規律節制ノ
中ニ若シモ逃ルト云フヨウナラバ其者ヲ直ニ切ルカ

MT

1615 900

モ知シ又此レが兵ノ規律ヲ云スノデアン夫レ能ク心得テ
レバナラヌ又進ト云フヨリ日布ノ士官ニ今更振奮ヲモ
置テ言聞カセリ。夫レ能クモシタ夫レデハ多分
新ノ政府カラムモ其命令ガ下リマセウ又私ハ今日述訓
條ヲ受ケタノデアルカウ何ルモテモ尽シテ一身ヲ抛ツハ
爲メデアル、命令ヲ受ケタルト云フゾデアワタ、夫レ聖
朝カウ忠孝スルト云フゾ此布キノ和城ニ教導兵
二百人ヲ皆ナ集メテ戦傷ニ向ル戦闘係ニ立テハ
即チ斯ククモモデアルト云フゾ解チ聞カセ私モ其處
ニ立テシダ、夫レカウ兵ハ南大門ニ出ント云フゾデアルカウ

MT

1615 901

△七

出ルニ付テモ又ドー云フコトカ色々筆程モアルカ
ウ行ラ是ヲ宜カニウモテ又士官ノ南大門外マデ
遣ハシタルコトヲ度目ノ兵ノ様ニ書兵共他ノ一モ
致シ度ンコトヲテアツタ、取テ診兵兵糧ハドーア
カト云ラニ信科ハ三月分未辨兵糧ハ十日分シカ受
取ラヌト云フ只十日分シカ途巾ノ喰前モ不足
ナ故外衛ツレ科合ニ夫ノ昨モエテ食料ヲ整
ヘラ出スト云フマデアツタ又今朝日本ノ士官ノ方カ
ラ来カ金備セスト愈々出立スルハ何時デアんカ分
ラヌトノ報達アリレニヨリ書取ルコト後使ハ遣ハシ

MT

1615

902

作促ラシテ来タノデアン、取テ昨カウ此東學
堂ハ剿滅シテケレバサヲヌト云フコト考ヘノ極デアリ
マスガ事後府ハ真ニ此東學堂ヲ國ノ害物デ
アルカラ何処マデモ剿滅セバサヲヌト云フ真誠
ノ決心デアアルカドーカヲ第一ニオ聞キ申シ
金總理大臣 此言葉マデエナク多端此ヲ討
滅シテケレバサヲヌノデアリマス今カウ二三ヶ月前ニ元
カノ事ヲ下シタラハ斯ク根柢ヲ絶スリナリシ併シ今日
此場合ニ至ラズ使マデウ心配ヲ掛ルハ何事面皮ノナ
シデアル所聞シヨハ忠告道ノ木川天安ノ如キハ最も根
柢ヲ絶メラオル若シ此決ニ差ル置

MT

1615

903

ナラハ威ハ多城ニテ押シテ来ルカモ知レヌ今多城
ノ人氏ヲ殺シテテテテノハ光ノ無カニテテテテ
ルカラ来テ枕シテテテテノハカモ来ニテテテテ
人氏ハ殺シテ有テテテテテテテテテテテテテ
極点迄ニ至ルハテテテテテテテテテテテテテ
使ニ向テテテテテテテテテテテテテテテテテ
テテテテテテテテテテテテテテテテテテテ

魚大飛之屋 云々之ニ馬原ナリテテテテテテテ

シ美テテテテテテテテテテテテテテテテテテ
云々テテテテテテテテテテテテテテテテテテ

MT

1615 904

ガ向事カト思フ志ニテテテテテテテテテテテ
多イカラテテテテテテテテテテテテテテテテ
夫ハ多城ノ暮テテテテテテテテテテテテテテ
ニナラテテテテテテテテテテテテテテテテテ
地方官ノテテテテテテテテテテテテテテテテ
何ト云カト云フニテテテテテテテテテテテテ
人氏ヲテテテテテテテテテテテテテテテテテ
テテテテテテテテテテテテテテテテテテテ
兵ヲ向テテテテテテテテテテテテテテテテテ
テテテテテテテテテテテテテテテテテテテ

MT

1615 905

陸が頭へて支那ノ兵ヲ借ルト云フコトヲ支那兵ヲ来セ然
日本兵も来ルト云フコトヲ支那兵ヲ来セ然
愛が起々此東亞事起リ一時起リシガ軍ヲ治ツタト云ナ
ト云テ觸ラシテ支那兵も軍ヲ返シサナシトナラヌ日本兵モ
返シサナシトナラヌト云フ如カラ信々元トシ國シテシマツテ
今日ノ場合ニナリタノデ兵隊國ヲ辱チ見シテ丁ニ支那
ヲ振ナシメデス

○井上外使 夫レハ如何モ事ナシノ故ト思ヒマス然レモ今
総理大臣ノ熱心ニ此東亞事起リテ勦滅シサナシトナラヌ
ト云フコトデスガ、事務大臣ハドレヲアリマス歟

金外務大臣 此事余實が起リ為メ、玉座ノ租税ト
云フモノガ一つモ上リマセヌ穀米錢モナク東洋ハドレシテ
此法ヲヤツテ得リカサハ見エナクナリ冬々地方ニ人民は皆
苦ミテ為シテ居ルノデス

魚大花大月 去年六月ノコトデアリマシタ當時俄ト云
フモノヲ生シテ「東亞事起リテ海シる役人」夫レ只何カ
書付シ據テ通シテのデアル位盛シタルモノガ只ガ分給使
リバンヤリ出シタカラト云フテ治マルベキトウ、此が為メ
四年日ヲ許ヤシタ所が効ハ無ク、後々東亞事起リテ盛シニナ
リテ来ルト云フコトヲナラゲ、今日熱フ云フ場合、ナツテ来

MT

1615

907

MT

1615

906

ハウカエツシテ呼ツサセリ方ガアレナラバ方ガ執ル方ガ宜シ
イモツ此場合ハ月ノ一最良ニ聽テ勅諭セシトスル
夫ヲ指テ行テ見ラト言ヒテゾアレ所ガ中々効果ガナシ今
日ハ此ヨリシテ殺スルコトナラバ最良金ノ收運明ヨクナ
モノデスサレバハ懐リテ捕トシテ今日ハ早ヤ既ニ討ツナレバ
ナラヌト云フナレバ

井上公使 大君ニノ下サレタル勅諭ノ意味ハ何
金総領大臣 其勅諭ハ云フモノハ此海軍王ノ詔諭
デアルト云フテ或ハ日本兵ヲ追ヒ捕ヘトカシテカウ捕化主
義ノ者ヲ捕ヘトカ殺セトカ云フナリ地方ニ言觸ラシテ

歩クモノハソノ早ク捕獲セヨト云フ詔諭シ下サレタリデ

公使 所デ今日大隈親王自任シ若シメルモノハ千戈
ヲ以テ討滅スルヨリ外ハナイト云ハルノテアリマシヨウ然

金總領大臣 ツーデアリマス
公使 所ガ知ガ得見シタリ今日大隈親王此處ハ
事柄セリタリ其時私ハ貴國政府ノ改良シ計テ
知主ノ基礎ニシテ貴國ナラシムル外ハナク我
天皇陛下下ノ意ハソレデス我政府ノ意モ同様ト云フ
ナリ言フタ処ガ 天皇陛下下ノ意ト云フハ聴クモ恐シ多

MT

1615

911

MT

1615

910

イト云フコシ云フテ見シコソレカウ段々話シシテ来テ先
前秘が今度来韓ニ付テハ何処迄モ来れ談シテ
改良シセバハコト云フコソ話モ出タルトマコ今日ハ
大變ニ疲レタ御用カラ大變ニ忙カウシタコト云フ振ナリ
シ云フ成程御老御コデカウ他日ハ豫ツテモ宜シ
コが今日マデ日本ノ為シ来ツタ処ツ説カケレバナラヌ
日本ハ斯クハコトモ意斯クハコト事リ勸告スル様ト
其談ニ赴クトドモ私ノ言フコソ聞クマイト難ル意
カアルコト云フシマコ完モ聞今日能ク閣下ト話シ
シマシヨウ私ノ意モ能ク御話シシテ又閣下ノ意モ能ク

MT

1615

912

聴キマシヨウ其次ニ各大臣モ一人々々話スルト云
フコソ或ハ疑ノ付スル事モ凡就テ各大臣同席ニ
於テ閣下モ出席シテ下サイト云フコソ話シタ処ガ大臣君
コソドモ云ハカサレヌト云フコソ聞シ云ハ法ガ許
ヌト謂ハルカ過リ私ガ大臣モ聞見シタ
コトハコト云フマココト云フコソ聞格デハナリ
内政改良ノ要スル意見モ申シアゲタ義シ
此等ノ内政ニ関シタコトガ大臣カ列席ス
ルコトナラヌト云フコトハ其意中コソ外務大
臣宮内大臣モ居ラレタコト見シハ閣下が

MT

1615

913

諸大屋列座ノトコロへも出ラレヌハナイ

ト云ハタトコロガ謁見トハ違フト云ハシタツシ

ハソシナラヌハ情儀スルハ宜ク開クト云フ

コトハ御好ミナサラヌカテシヨ法ト謂ハレ

ナラ一ツ間下ニ尋ネタイガアリ東學堂

ト云フモノガ各地ニ轉記シ之シ書出

府録壓スルコトゾキスシテ日本ハ依

シテ日本ノ兵ハ派遣シテ録壓シテ口

ト云フコトゾアル之レモ貴國ノ法ゾアリ

マス然ト聞フタツースルト日本兵派遣

ノコトハ予ノ意ニアラス各大臣ノ意

ニ出ヅタノバアル大臣ガ申シ出テタル

ニハ自カハ只ダ首出タルノミト云ハレ

タ然ラハ閣下ハ政治上ノ責任ヲ以テ

之ヲ許サレタノデハナイカソシテ閣下カ之

シヲ知ラヌ自カノ意デナイト云フハドクニ

譯デアルト押し詰メシバサキハ歟ヒオ

キタルニ個ノ意見一ツハ内政上ノコト

一ツハ外務上ノコト自カ見込ムコトア

リ云々ト云テ以テ他シ云フ

MT

1615

915

MT

1615

914

中幕に於て我々の如く朝鮮に於ては我々の如く同様に
即ち國策として我々の如く我々の如く我々の如く
又位地を以て我々の如く我々の如く我々の如く

公使 外務省に於て我々の如く我々の如く我々の如く

金外務大臣 我々の如く我々の如く我々の如く我々の如く
行方不明の如く我々の如く我々の如く我々の如く我々の如く

日清戦争の如く我々の如く我々の如く我々の如く

金總理大臣 我々の如く我々の如く我々の如く我々の如く
我々の如く我々の如く我々の如く我々の如く我々の如く
我々の如く我々の如く我々の如く我々の如く我々の如く

MT 1615 918

公使 我々の如く我々の如く我々の如く我々の如く
我々の如く我々の如く我々の如く我々の如く我々の如く

歴々今我々我々の如く我々の如く我々の如く我々の如く
嫌々我々の如く我々の如く我々の如く我々の如く我々の如く

貴國の如く我々の如く我々の如く我々の如く我々の如く
我々の如く我々の如く我々の如く我々の如く我々の如く

殺戮の如く我々の如く我々の如く我々の如く我々の如く
一番我々の如く我々の如く我々の如く我々の如く我々の如く

金總理大臣 我々の如く我々の如く我々の如く我々の如く
我々の如く我々の如く我々の如く我々の如く我々の如く

MT 1615 919

大東亞... 1615 922

大東亞... 1615 923

居るにモ 奏露ノ何れ出たりニモ 御ナノハニラハ打破
ヤウトモモ中ノハニモ 敷ノ一ノバノラト思フたス 斯ルモ老の
ノ度私ガ説破シ 謝罪モモモ 其果威ニ再出スルハ
ナシ又今ツ大役見出ス前ハドノデモモモモノノノ
就テ聞ラ見タ丁度大役見用 謝罪モモモモモモモ
知ラス 閣下ガ世道ニモ 同政ヲ執ルノノ 殺シ金ヲ掠ルノ
ノ如キ非政ヲ行ヒ大役見ニ其ト而伸ス人ノ又其大役
見ラモモ政治上ニ 容察スルニモモモモモモモモモモモ
且大君主 謁見ニモ 知ノ様ヲ見ニ王姫ノ障子ニ隠ルノ影
カラ彼此ト國王 言葉ヲ添フノ聲カ皆聴ハノ 故ニ考ヘ
キ

MT

1615

930

王姫ニ中々オ物ナラシエト 閣下ノ勢力即王姫ノ勢力依
テ強クシテモ今其権力ノ大役見果威ニ以テ押ス
ハ恰モ大役見ニモモモモモモモモモモモモモモモモ
キ

931

又孫ノ李峻銘ノ人オオ子ニモ 前後熟慮深思ニ
世子何モ善惡差別付テ 欲モ無思慮莫負公方
目下 閣下ニ餘程前途困難 堪合ニモモモモモモモモ
亦着モ仕方ハ無ク止ラ得ス 貴公方ノ責ニモモモモモモ
一方ニ并ニモモモモモモモモモモモモモモモモモモモ
モモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモモ

MT

1615

一事駐在シシ外カ此如キ者モ思フ

在ル人ガ政治關係ニモヤリナク出来ルヤ否イ出来ヌトシ

ナラハ日本ハ最早貴國ヲ打撃ス可シ然レ今日支那向

テ樹ナリテ行ハナク不辛ヲ賜出スル計ニシ

金総理大臣 一ト曰クニアリマス我ハ陛下ノ事ニ憐

リトアリマスカ外國カ我國ノ斯ニ近キ所ニ下サシ此國

為ニ近キ所ニサスモバナクスハ當然ラア今近ラエ十分

力ヲ入シテナラバ今更ニ進ミテ行ハシメアリマスカ

此實ニ吾ガ充分カラ伸スルカ出来ナカク併シ是

レハ自ら等々責メアリマス何リトモ今此境合ニナク貴

MT

1615 932

國カ今此國ヲ見捨タルニナラハ實ニ大變ナクテ

已斯近世孰スルハ耻カシイテアリマスカ耻ヲ忍ビテ一

ナラハ貴國カ因テ段々此國ノ体面ヲ維持シ

来シテアリカ今此目的カ付カイカト云フテハ則テ

一貴ニ欠ナラハナラハナラハナラハナラハナラハナラハ

ニ又大隈君ノ意ハ此下サナラハ正面ニ立テ政府

仕事ニ為スルコトハ無クナリトモ及フト思フナラ

トウカナラハ願ヒ度

其カラ今上陛下ノ御歳ノ後今ノ世子宮

ノ后代デアリスガ之ハ大ニ諸事ニ懸傾

MT

1615 933

基本の建ツナハ維持カ出来ルヲアリマシ
其レモ此基礎カ立マセ又以上ハ先ツ具基
礎ヲ立テ信々著達セシメテ此國ヲ維持
シテ行ク事ト出来ルヤリニ致シ度シ
負々大任 目下重病人同様アリマス
ラ之ヲ治療スノ手段方法ハ貴公ノ諒察
マウラ通事ナシ 案ハ與ヘテ貰ハナケレバ
ラス

1615 934

公使案ヲ用エト云フハ餘程困難業ラ
第一大院君成程今迄大院君ノ迷惑ヲ誤

MT

破レタナラハ大失夫トオシヤル中ハ此誤破カ
而倒ナリタアル夫ハ大院君ニ用エヘキ案ナ
政治ニ餘リ関係セヌト云フ尤甚イ案ヲ
オエナラヌ是ハ大院君カ非常ニ苦悩シ
附随ノ禍固受ハ皆不快ヲ抱キ始終亦不平カ
起ル云々ナリト云フ先ツ國王ニシテモ王姫ニシテモ
政府ノ人ニシテモ實方三人ハ宜イガアリ人
類ニシナラヌ而シテ私ハ醫者ニシテ子ナラヌ病
人モセナラヌ方法モアリモシヨウカ其方
用エテ段ハ私甚々困難ヲ感ス

MT

1615 935

大蔵大臣魚允中 貴公ヨ日本ヲ往新ノ元勳ヲアリマ
ス貴公ハ此如ク所出ニハト云フコトハ我々ハ甚ニ喜ビ且ヒ御
醫者サレシ得リ此御医者サレシ得ルニ於テハ餘程宜シイ
療治ヲ受メルモノト思フオリヌ今其業ヲ病人ニ飲ム
カ飲ムカ先ツ餘リヒリイ業ヲ用ヒス宜シク示ホラカナ
業ヲ用ヒテ平和ヲ手段ヤル方カアロウト思フ則チ貴
公ノ處方書ヲ御出シテサレト私ハ何モ身体ニ怖レモシナ
イ惜ミモシテ極ク貴公ノ業ノ處方書ヲ以テ大院長
リ其他ニモ忠告シテ用ヒテモマヌ
公使 若シ私カ朝鮮ノ臣民ヲモコナ場合ハ職務

MT

1615

936

シテハ惡人ニテ好物ト云フ者ヲ蒙ル其止シテ事
柄同ノ爲ニ大ヤウ害ニ大ヤウ分カラウ之ヲ避クント云フ
事ニ成ル

又金鶴羽ノ如キ強直ナル者ハ皆余ヲ取ラハト云フコトニテ
ル看病人ニ直ニテ其術ヲ施スノ手段ハ頗著ヤリ
今金鶴集サレテ造ヤウハ大院長ヲ能ク政治ニ容
喙セシメヌルコトカ出来ルヤ否ヤト云フコトナ家一ラアカ
見テ外ハは方カイト思フが又裏面ハ如何ヤリト言カ起
ルカト云フコトヲ考見シテ前キ言フ通り大院長ニ附從シ
大院長者杯ハ角ハ抱人ヲ入レテ事ヲ為ス時ニ其

MT

1615

937

有漢人ヲ殺シテ見リ何カ妨害ヲ加テ見リテ様ニ
ハサウ

總理大臣金宏集 大院君トシテ人カ愈々本統ニ悖
リ開キ新念ヲ付ケルサウテモアルマイト思フアラマス
大蔵大臣魚允中 何ウモ朝鮮トシテ國大君權
ノ隆ニ行レリ國ガアル終ニ政府ノ有名無実ノ姿ニ
ナラシメ政府ノ有テモ無クシテ且シイトアル有様ニ支那
ニ其通り一向政府カ何故多トアル有様ラんカラ
自然之國威トカ何トカアルコトニ構ハム足ラ王室ニヨリテ
政府ノ仕事ニスル習慣ニナラセオム

MT

1615

938

ソニ貴國ニ全リ之ト違フ則チ維新ノ時モ幕府ト云
フモノ有リ為ニ王室ノ光輝ヲ失フコトアルコトノ為ニ改革
カ行レラ維新ト云フコトニアル其ニテ維新ノ當時
皇室陛下ニモ御事ニアルニシテ當時政府ノ組織
頗ルハ全然シテ又皇室ノ威嚴トアルコトモ明ラカニアル私ノ
國ハ是ト違フ何百年来此様ニ凡ソ慣レ來テノナリ
カラ畢竟一朝一夕ノ聲聲ニアルコトモ國體ニコトアル
公使 日本ノ維新ニ陸長ノ武力シテ幕府ヲ破壊
シテ今日ニ至リテ幕府ニ其權限ニ中々盛ナモノヲ
アルコトモ係ララス又全國各大名(諸侯)トアルモノハ皆

MT

1615

939

此兵ヲ養テアリ自ラ各藩、組織アリ故ニ貴國ノ有様ト
ハ大ニ異ナリ所ナリ貴國ノ情勢ハ如何ト云フニ世道
(執権卿)則チ李蘭金杯カ君權ヲ假冒シテ世道ナド
ノ名振リ用ヒ如修一家ノ為メ勢力ノ爭奪ノ騷動ノ
ミナリ事トス又兵力カ足カト云フ、其兵力ハナイ故ニ日本
トハ多轉ニ異ニスルアリ

大藏大臣金鑑中 一休我國ハ信テノモトカ文具(裝飾
的)ノコトカ多クイフアリ

總理大臣金鑑集 モウ政府ノカナド一云フモノハ何處
トモウ昔時カラアリハシナイノデアリマス殊ニ又人物如キモ道

見博識ノ人ト云フモノナリ國カト云フモノハ金ナカウリナ
リ

公使 ソコナ何ノ國ニ於テモ臣下ニ人物ノ出ル時ニアリ又モナリ時
モニ共和政治ノ國ニ於テモ又サウデアリ則チ其腹中ノ様ニ
始終言キ人物カ出ル國位カ上ノ昇リ墮ル人物カ出ル國
位カ下ノ下ル上ツナリ下ツナリト云フコトニナルニデアンカラ此
政治ノ基礎ヲ定ルニ一々其法カモナリ事々物々之ニ照シテ
行ヒ又君主モ其法ニ因テ政事ヲ行フヲ好シトス
總理大臣金鑑集 貴公ハ省臺ノ内話ヲ承リマシテ猶又
ニ三日中ハ内話ヲ承リ度ニ

MT

1615

941

MT

1615

940

大蔵大臣魚元中 病人ノコト、就ラ殿々ハ諸君同シシヲ
要スル、只今少少ノ富貴者ヲ出シテ下サレトテ望ミマス人
日ハ是レヲオモシク何カ果テえカ、ハ研究下サツテ其ハ

公使 貴公方モハ疲勞アリマセリカ用意シテマシマス
リウ食事ヲササシテ来テハ能ルコトカアリマス

時ニ休憩ス午後六時三十分ナリ

午後七時二十分開始

公使 今假リ、大隈君ハ先ツ政治上ノ味方ナリトシテ
伯耆ノ出来テ大隈主モ只今爲ス温厚ト云フ所方ニシテ又

其裏面カウ王妃ナトカ誰ノ採用セリ 誰ニ退リヨト云フコト

無イマウニシテハハナラヌ若シ之ニ對シテ王妃トウ味方ニ答

ル、トスルハハナラヌ大隈主ノ真意ハナラズリ月々中央政府
組御格限ト云フテ夫々正カニト想像シテ処々全羅

憲清ト云フマナ所カウ租税カ納ラヌ政府ノ費用ト云

テ一カニ東洋學カ起ラ甚ク是レハ有様ラン又平壤

近傍ニ租税カ納ラヌ只今黃海近傍ハ俄ラ租税カ

納ルカ知ラカ之モ當テハナラズト云フマナ平壤ノ方ハ支

那兵カ来テ財ヲ掠メ家ヲ焼キテ様々有様ランハ縣大

將カウノ報告ニモ平壤以北ハ義州迄ハ何カカ出火カ處

MT

1615 943

MT

1615 942

シイ境多仕方ナリ之ヲ搜索に暇モナリ支那兵ノ残徒
ノスルコトハ是モ監司ナリ言ワレ見ルケレモ何モ此支那人ト云
フコトハナルト取締ラヌルコトが出来ヌ何トモハ從來支那人
ヲ崇拜シテオタナデアタラシクカ出来ヌ成程日本
ノ兵モ多數集合シリ如日本ノ兵ハ某ヲ買テ某ヲ買テ
之ヲ其報酬ニ爲シテ迷惑ヲ掛ケテ居テ併シナカラズ即
兵ノ爲ニ隨分裕儀ヲ賣ケオルト云フコトハ之モ能ク少
知ラズ右ノ事体ナリ彼ノ思ハク租税ハ納ラヌルト本
年ノ收入ハ殆ト皆無ナラシト想像ス
収ナクシテ支出ハ出来ヌノミカ毎年異リ東亞虎ノ討滅

MT

1615

944

ノコトナリ兵ノ出入又此兵ニ給料モ糧食モ支給
セラルナリ又冬ニ至リ防其ノ具ハテントモ極
ラヤラナシハナ
リ其費用モ隨分夥シナリ凡ソ會計上如何ニ積
リカ算リタレ

大藏大臣魚尾中

より又政府ノコトハ一体不整頓ナリ

アリヌモ是カウ金庫ヲ付テ所託ノ通ニストシテ外ハ信

歩ヲ進メテ行カサケルナリ今口情ノ戦テ平場カ

ウ向テ方々目的ナリ又三南(忠清全羅慶南)ニ先

ツ目的モナリ併シナラズ平時ニ復スニ至リマコウガ夫シテナ

リテ租税ノ増量カサレタト云フ中ニ左様ナリ知シヤ

MT

1615

945

今後殿々仕事、掛うといたす。場合ヲアツ見、其
不意ヲ感スルヲ人

先ツ必要ノ費用ヲ補フ為ニ紙幣ヲ發行シヤト思フ
其テ仁冬則テ(人參)是ハ所等紐直リ此收入ノ王
室ノ歳入トナリテ、ソノテマテ支所ノ増々行ハ其金ヲ王
室ノ費用ニ充テ、ソノテマテ今度ニ至リテ度々補
州ノ管轄、シヤヤト云フコトヲアルカウ此人冬ヲ賣ラニテ
使フ者、ソノ世ニ平常ナニル、ソノ三四百萬圓ノ金ガ
出来ル、ソノ併今其ヲ賣ル場所、何カアリテ、ソノ
ま即チ、ソノ感、朝鮮、對シテ、惡イ其、レアル

MT

1615

946

カラ之が賣ルカ、賣ルカ心配デアリマス

公使 紙幣ヲ發行スル所、權日本ニモ發行シテ併
シヤ、紙幣トモ、ソノ正金ト引換、ソノ
出来ナレバ、ソノ國民、無理押付、外國人、對シテ
銀或金、引換、サレハ、ソノ

今日他國ノ貿易ヲスル故、外國人が紙幣ト引換、
来リ、時ニ、賣ルカ、出来、レ、ソノ正金ヲ
使サレ、ソノ人參、ヲ賣ルカ、今、賣、周ト、支、即ト
南、戦、ソノ、有、様、此、戦、事、が、来、年、二、月、迄、カ
三、月、迄、カ、五、月、迄、カ、時、機、が、分、タ、今、假、リ、五、月、迄、カ

MT

1615

947

ヲ六

しり所が夫かう先アタシに金に得るモノだ
此に於て今紙幣ヲ亦拾萬圓に三十三萬圓出したりト
申見ナサイ日本人より西洋人カ取換、素に三ツコトいた
なり銀行が紙幣を發行せし其銀行に向テ外國人ナハ
度々正金ノ引換を行ひし何銀行も彼ノ銀行ヲ
換テ其大不夫のヤト云フコトナラ初テ世ノ中、其紙幣
ヲ信用スルモノハ政府ノモノシテマカウナリ引換ル元
資ヲ同意シテ置ルモノハ出来カ何の手其札ヲ發行レ
る来年止償還シテ行ハル然ルべし外國人カ引換ニ未
し月之に對シテ金或ハ銀ヲ用意スルモノカ取換りし

MT

1615

948

大蔵大臣富田

貴公がやう云フコトハ最モ可哀

ニト云フカウ 財政ノコトモ申掛リニナツテアコリコトアリマカ
う何れが適當メ方カ思ハル其ノ同ヒ度ノ思フ

公使

先ッ日本ナラ凡ソ一十年ノ租税ハ幾千歳入デ

アミテ年々五ヶ年シテ平均シテ見ハル幾百萬圓

トナリ或ハ多ク、税ノ課シ得ルコトヲコトヲ調ベリト云ハル案

モ出来ルナリ、故、貴公方が國庫、是丈ノモノハ難カ

納ムルナリモノト又税ノ中ナリ何々増税ト得ルト知此

税ハ高イカウ斯ナリ凡、減シテ斯ナリモノ、税ノ課スルカ

宜シイト云フコト、ヤウ然ル、此朝鮮政府ノ收入、倍

MT

1615

949

二千萬圓ノ歳入ヲ見トシテソコニ王室ヨ政府ノ方ニ無
用ノ費用ハ大變掛ン丁度一例ヲ舉ゲテ見シハ私ノ閣
リ所ニ王室ニ女ハ七百人ニ至リ其カラ又各役所下ニ
無用ノ役人ハ澤山居ル此等節減ヲ痛ク行ハスニシテ
其費用ハ二千萬圓ヲ二ツ支フニ結ハサシテ然レハ軍ニ
ノ歳入ハ不足ニ至ル

就テ第一王室ノ費用ハ是々逐々減セヨハナラヌ又政
府各衙門ニモ無用ノ費ヲ節シ其合併スルモ廢止スル
モノアリ且官吏ノ充カニ職責ヲ盡ストコトニシテ
一ツノ總ニ上歳入ノ歳出ノ剩餘ヲ算出シ其額ハ經

ワテ紙幣ヲ發行スルコトニナラズ其別換金ヲ他カラ
借り入レシモ所ナシ利子ハ付クニ何ケ年間償
還シ得ラルト云計算ヲミテ又其額亦先調
査明ラササル以上ハ私が幾ラ延擱ハアラヌ案ホシテ

大藏大臣島久ハ
朝鮮ニ元ト今ニ標ナ銅
錢ヲ用ヒコトモ以前ハナリナリ物價ヲ以テ金ト見
做シテ銀錢タノデアツテ人民ニ至リ信用ハ有ラナラ
政府ノ用ニ使フ素タノハ銅錢ヲ使用シタコトニ昔ニナレ
ハ道ノ税納トアルモノモ米絹木綿ヲ以テ収メシ難

MT

1615 951

MT

1615 950

穀の餘り取らば(江奈道ノ或る部分に於て雨多か)夫が此種
の用より多きを余儀り領主より地方にナリ地方に於て物産を賣
(金貨)持て來ルノ不便ナリ是は領主が持て來り京城に賣り納
りマツルより納メカタク成テオツ(地方の物産を賣るに不便ナリ現品
ヲ持て來り上納スルに於て領主の賣價に京城に於て低價多しナリ)
其の一年の收入の段々増へる見ゆ其の増はるは税関
の收入を除き地方官の経費を充てし月給を除き京城に
運入ルモノが若干有るナリ云々凡五百萬圓ナリナリ
(日本に圓銀貨の制ナリ)世外に雜稅ト云フモノアリ
其雜稅ト云フモノは是迄王族ナリノ私に便シテ在リナリ

MT

1615

952

凡其の除くは本税、上運入にモノ、五百萬圓以内ナリナリ
リマス、東京城の所領知ノ通り一年、相付めしラ支
つるトが出来ルカリ云フ、五百萬圓ト云フ、日本で見し
強し、帝室費の同様ノモノト思ひしか其額、國庫
の此ナリ、主トメ、運入ノ方ニ、運入ノ旨に其中或る部分
は土地を遺しシアルナリ云フ、京城、役人、
極り禄がサナイノナリ、地方の行テ地方官トナツ地は其財
ヲ極り、來ルカラ、今日迄何うト云フカヤテ來リ、何にか何し
今、分割を定メ、役人ノ定限し、即御ウケフルと云フ
い、對面、今日、如何し、爲メ、コ、ト、來ス、各、情、ナリ、上

MT

1615

953

かん金ミ下口が五百萬圓デハハ數トハ思フ

夫ヲ私共朝鮮人トシテヤラサケハナラヌトハ先ツ

朝鮮ノ王室ヲ制定シ各所門ノ出處出ツ定メ成

ハ可ク約シテ成ニナリ金ノ入ラヌヤウニヤフヲ行

アウト思フ

公使 其ハハカニ又王室ノ制定規模シハ定ムト

ラフエト付マ凡テ租税ノ度支行政ノ統制ハ王

室モ定額ヲ付ケルヲオトス

然レ凡況ニ其費用ハ五拾萬圓トモフコトヲ得レ

ルヤウニ聞クスハハ大元君ハソナエ至ノ尊嚴

ヲ缺クヤラサコトナシテハナラズ日本ハ三百萬圓シ

カラ朝鮮ノ如シ信シテ六百萬ナケハナラヌト

テ況ノ如シ真ニ非サレヤ否ヤ知ラス君レ如ク如

ク諱大ノ考ニテハ徑恠ハニ難シ

日本ノ輸入ハ昨年ハ一十萬圓餘ナリ皇

室費ハ其中カハ三百萬圓日本ハハ

維新以來ノ改革ハハ皇室費ナハハ

非常ニ削減シ信程ハ前ト欲格ナト

カミナリ

下ニ續ク

MT

1615

955

MT

1615

954

北間を謁見する時此様ナ卓子ニ此様ナ卓被
ヲ掛テアツク之を餘程ノ高イ金ヲ出して買タモノデ
アロウ我々ハ此間デ買フモノハ三四拾圓モ高價ニ當ル
ナラシ詰り無用ナ役人ガ多クアシハ種々弊害ヲ生
シ金ヲ吸取テ仕舞フヤウニナル是等ヲ除クコトカ
出来ヤ不ヤ總理大臣外務大臣ヲドモヤリ遂クルト
云フ即決心ヲアルヤ不ヤ

1615 956

私ノ言フコトハ小イサイ塵ノ様ナコトヲ云フ様ニ思フ
モモ知ラヌ併し小ヨリ大ニ及フ迄モ經濟ト云フモノハ
無用ナ金ヲ使ハヌ有用ナ事ニ使フト云フコトデ

MT

サケレバオラヌカ今日ノ有様ハ私ニ言フ知ラ相心像デ
アルガ其想像ノ外ニ出ラヌ知ロウト思フガ何ウデアリ
マス歟

大藏大臣魚允中 実ニ即尤テアル役令國家ニ

金カ多クヲモ制限シテ使フベキ所ニ使ハサケレバオラヌ
ナデアリマス

1615 957

公使 現在ノ有様ヲ見ルニ王室ニ兵卒モ錢カ
居ルガ此兵カ守護ノ用ニ立ツヤ否ヤ又無數ノ小吏
極メテ多ク其他各衙門等モ同様ニ其實ハ國民製
造所ト言フモ過言ニアララン斯ノ如キニ魚允中サシ

MT

フナ一

又總理大臣ナドが歳千骨ヲ折テモ無益ナラレ國ノ經
濟ト云フモノ大藏大臣一人カスルモノデハ無イ第一王
室各大臣等聰裏ニ必要ナリ何シテモ一ニ必ガ不
經濟ヲ行ハバ金社ニ波及スルノ理ナリ恰モ人間ノ身体
ノ血液ノ如シ吏ニ因テ生リ保ツコトヲ得ル其血液ガ
段々減スルハ人ノ体モ段々疲衰シテ死ニ至ルハ一國ノ
經濟モ又道理ナリ

此カ國難ト云フ一方ニ大隈君并ニ王妃其他王族
ニ政治上ニ容喙ヲ禁シ且尊嚴ヲ保ツト約ナリ
タリトスルモ即チ之ハ非常ニ苦藥ニ相違ナイツコニ附

MT

1615

958

随テ人モ不快ヲ極ムナラシ然ル上ニカニ苦藥
則チ第一王室費節減人負減少等之ヲ実行スルニ
當リテハ非常ニ不自由ヲ感セラルナリ又各衙門以下
ニモ不自由ガ起ル地方ニモ波及セラル得ス今度ハ前
キニ政治上ニ容喙ヲ停止シ復テ一層ノ苦藥ヲ段々
勸メサルヲ得ス故ニ病人ガ其苦藥ヲ堪テ飲ムコトカ
出来ル歟否ヤト云フニ中々飲ミ難カラシ今度ハ先ツ
二週間前ニ居テ事々物々眼ニ見耳ニ聞クコト終テ先
ツ何ウシタラ此國ガ自主独立ヲ鞏固ニサヌコトが出来
ルカト云フコトヲ深恩熟慮シテモ今日ノ場合中々

MT

1615

959

至難ノ業ナリ其苦業ハ佳味ト思フテ飲ム人ハ一人
無イ實ニ困難至極デアリ

總理大臣金宏集 私國モ元トハ斯リテハナカツタ
ノテアル後人ヲ出スモ各省大臣カウ表上リテ君主
許ヲ受ケテ却テ國王カラ直接ト云フコトカハハト
耻カシク思タ必ス相當ニ処カラ出サケレバナラズ政府カラ
稟ヲ取立ラハコト又ハ大内閣内ノ修繕ノ如キコトモ無暗
ニレヌ勝手ニスルト云フヤウナコトハ決シテサカツタノデアリ
此三四十年前迄ハソウ云フ風デアツタノデアリ
井上公使 今オツレヤル通り國務大臣ガ責任ヲ帶

MT

1615

960

ビ國家ヲ脊ニ負ツテ過失アツテモ國王ハ祇々其機
國王モ信認シタル以上充分保身シテ其職ヲ盡シタル
ナリテハ責任ヲ負フハ難事ナリ

總理大臣金宏集 寔ニサウデ儲テ其君主ガ大臣
ヲ撰フト云フコトハ何ノ為ニ撰フノデアリカト云フニ則チ狀
撰フト云フコトハ信用シテ政務ヲ委ヌルカラコトデアリ
外務大臣金允植 王在上安臣在下勞スト云フコト

モアル

大藏大臣魚允中 何ウモ此頃ノ様テハ仕方がナイ外
國交渉事ハ外務ガアツテ之ヲ司ニ然ルニ其途ニヤラ

MT

1615

961

ナル宮内ヲ直接、往來ヲ為スコトアリ實ニ驚ク可
キモノデアリ

公使 私ノ意見モ漠然タルニ非サルハ明瞭シタル
ナラシ後テ其策モ裁種トナリ非常ニ善ナルソコテ
私モ今朝鮮ノ臣民ヲハ仕方ナシ日本ノ

962

天皇陛下ガドウカニテ此朝鮮政府ノ内政ヲ改革
シテ獨立ノ權ヲ完フルヤル尽力セイト云フコトテ素
リシカ如何セシムコト為テ朝鮮ノ頑固黨大院君
王妃李後鎔其他ノ妨害物ヲ且ツ改良ムル至
難ノコトノ寧ロ放棄シテ歸國ノ上 天皇陛下

1615

MT

・獨立ヲ望ム國ナラシムル實ニ難シムル能ハサルノ理あり
上奏セント考案ガ難ナリ

總理大臣金完集 併シ私等ハ思フニ隨分危ナシ
テアルガ公使ハ外國ノ何方テモアリ又職務ヲ即出スナッ
クノテアルカウ別條ナリ

963

1615

大藏大臣魚尾中 貴國ノ原諒ハ終ニ日清ノ交戦
トナリ大兵ヲ動カシ来テ今日有様ニナツク則チ是レ我
國ノ爲メ簡様ナコトニナツクテアルガ則チ又日本ノ爲メ
東洋ノ爲メヤラシクテアルカラ此処テ貴公ガ断念
シテ下サワテハ折角ノ御尊意ニナツクガ御水意ヲモナ

MT

714

カロウドウアツテモ日本ノ義使ト云フコトハ世界ヲモ知
テガルコトデアルカラ政際充分ニ眼ヲ離サズシテ却中助セ
ラレタシ

公使 今日何レノ國トシテモ國ヲ立ツル以上ハ富國
強兵ト云フコトヲ計リ其國ノ害ヲナスモノハ之ヲ除却シ利
益ヲ擡張セサルヲ得ルハ通義ナリ日本カ義使心ヲ以テ
貴國獨立モシムルト云フモ貴政府自ラ其獨立ヲロ
唱ルモ其言ヲ采ナクルヲ務メサル上ハ日本政府ハ止ムヲ
得ス朝鮮ニ對スル政界ヲ變セサルヲ得ヌ則チ吾國ノ
有害ハ兵力ヲ以テ我國ノ鞏固ト普國利ヲ計ラリ

MT

1615 964

ハナラス將來何年間ニ貴國ノ開達ノ如キ義使カ
ラサハナリ

總理大臣金房集 茲ラ私ヲ以テ極ク卑屈ナ考ヘ未
マシテ貴國ノ恩ヲ見ハ誠ニ所カタル事ニ必
物ヲ排除セリトハ是事ニオニアルオ一ノ基礎ヲ作
ラシムナリト云フ大ニ私リマシテ貴國ノ人ハ此病カ
何デアルト云フコトハ知ラシメ今所醫者サレテ私ラ其
病ヲ治スルヲ望ミ所デアリト云フコトハ急息存己ノ秋
デアリナリ物等ハ急カニ請ヒモ發シス

MT

1615 965

公使 二人ノ相談ハ就タリ私カ所相談ニ異ナレリ

フナ

度支大臣ノ方ハ第一輸入ニ非常ノ關係モアリ又財政
上ノコトハ孰ラモ所考アリタレ

總理大臣金尾集 和ノ方カウ却テ所頼シテハナラフ
コトニアルトモ貴公ノ方カラ恐入ル

公使 貴公方ノ決心ヲ能ク聽テ見テ有難ク思ハル
以上ヨリ所考貴公方ノ方カウ恐入ル 鏡ニ照スナラハ映ルノ
アリ

總理大臣金尾集 道ガ開ケサイスルハ漸次此事モ
進ムベシト存スルナリ

公使 和ハ貴公方ノ決心ヲ能ク依テ考案アリナル

明治二十年四月十四日

MT

1615 967

MT

1615 966